



スタートアップ研修

FIVA

文学

SNS

# TWITTER

421Lab. の以下のプロジェクトは、ツイッターによる広報を行っています。プロジェクトのイベント情報や、Lab.Times とは違ったその場、その場でのタイムリーな活動の様子を見ることが出来ます！  
 まずは興味のある分野のプロジェクトからフォローして、北九大の地域活動への扉を開いてみませんか？ QR コードから見ることも出来ます！  
 もちろん 421Lab. 全体のアカウントもありますよ d(⌒-⌒)



421Lab.

421Lab. の PJ 活動の情報や地域活動の募集などを発信していきます！



食べる国際貢献 PJ  
【TFT×kitagata】

TFT メニューで、食べる国際貢献をしませんか？



青空学 PJ

北九州市の公害について研究しています！



「平和の駅運動」PJ

小倉の伝統芸能や小倉祇園太鼓を用いて各地で平和活動を行っています！



「文学の街・北九州」発信 PJ

本や文学にちなんだ活動を行っており、今後は読書会やツアー企画を予定しています！



ファッションネットワーク PJ  
【mArs】

ファッションイベントのお知らせや活動風景を発信していきます！



## 編集後記

Lab.Times 6月号を手にとってくださりありがとうございます。新年度が始まり、421lab. での地域活動もスタートしました。そこで今月号では、活動が始まったPJを取り上げてみました。PJの活動がどういったものなのか知っていただき、興味を持っていただけたら幸いです。地域活動に興味を持ってくれたPJに加入していない学生でも、infomation型地域活動(通称 info)と言うものがあります。infoとは一日から参加できる単発のボランティア活動のことです。北九大生であれば参加可能ですので興味のある学生は是非421Lab.へお越しください。お待ちしております。



### 編集長：山口大斗

《プロフィール》

地域創生学群 3年

運営スタッフのリーダーと広報班のリーダーを兼任している。初対面の人には恐く見られがちだが、実際には陽気な一面もある。

運営スタッフの裕太郎とは、大学生活のほとんどを一緒に過ごしているほどの仲良し。

ディズニーリゾートは自分を解放できる唯一の場所。ホテルミラコスタに泊まって部屋からディズニーショーを見ることが夢。



北九州市立大学 地域共生教育センター (421Lab.)

〒802-8577

北九州市小倉南区北方4-2-1 (北方キャンパス2号館1階)

Open / 10:00-18:00 (月～金)

[Tel] 093-964-4092 [Fax] 093-964-4088

[Mail] info421@kitakyu-u.ac.jp

[Web & Facebook & Twitter]

421Lab. 検索

編集者：3年 山口・佐藤・清水

2年 黒松・越智



『Lab. Times』は地域共生教育センター(通称 421Lab.)が発行している広報紙です。



スタートアップ研修

FIVA

文学

SNS

# 地域活動始めました。



ちょっとその前に…

## スタートアップ研修



421Lab. では5月13日(土)にスタートアップ研修を行いました。スタートアップ研修とは、今年度地域活動に参加する新規メンバーを含めた全学年を対象とした研修会で、学生運営スタッフが企画運営するものです。これから地域に出て活動していく学生たちに地域共生教育センターとその活動について理解してもらったり、メンバーとの親睦を深めてもらうのがねらいです。研修を通じては、地域活動が初めての学生の不安を解消したり、活動目標やメンバー同士の活動に対する思いなどを共有したりすることが出来ました。

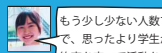


### 研修の流れ

#### ①地域活動について



421Lab. の説明やこれから各PJの員として地域活動をしていくための約束事などを共有しました。

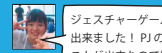


もう少し少ない人数での研修を想像していたので、思ったより学生が多くてびっくりしました。約束を守って活動をしていきたいです。(いぬねこを守る会 1年)

#### ②アイスブレイク



PJごとにチームを組んで、アクティビティに取り組みました。新規メンバーが活動を通してPJの先輩メンバーと楽しく会話をしている姿が印象的でした。

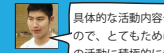


ジェスチャーゲームでは、見事正解することが出来ました！PJの先輩方もたくさん会話することが出来たので嬉しかったです。(国際交流PJ 1年)

#### ③PJの活動の共有



PJごとに分かれ、新規メンバーに対してPJの発定理由や今後の活動のスケジュールの共有を行いました。



具体的な活動内容や今後の計画が分かったので、とてもためになりました。これからの活動に積極的に参加したいと思いました。(青空学PJ 1年)

### 参加者へのインタビュー

今年度は31人の新規メンバーが入ったので、研修前にはまだほとんど名前を覚えていなかったのですが、当日は全員の名前を覚えることが出来ました。特にアイスブレイクを通して交流を深めることができ、最終的には初対面のメンバー同士が話したりもしていたので良かったです。1年生の反応を見ると、活動に積極的に参加したいという雰囲気伝わってきたので安心しました。去年よりさらに良いPJにしたいです。



国際交流PJリーダー 篠崎友哉さん

今年度の課題のひとつに新規メンバーが打ち解ける機会をどう設けるかというのがあったのですが、様子を見てみると今回で大丈夫そうなのでメンバー同士が仲良くなっていましたので嬉しかったです。受け入れ先である市役所の方にも参加して頂いたのですが、市役所の方と新規メンバーが活動前に関わる機会ができたので良かったです。次の活動ではさっそく市役所の方と関わるので、新



防犯・防災PJリーダー 森茂梨萌さん

### 企画者へのインタビュー

Q. 今回の研修を企画するにあたって工夫した点は？

アイスブレイクでは、新規メンバーの人数が多かったので、よりPJのメンバーと関われるように全てPJ対抗にしました。自己紹介のカードを作ってもらうときも、ただ自己紹介するだけでは打ち解けられないと思い、名札に好きなことを書いてもらうことで自己紹介しやすいようにしました。またPJの活動の共有では、新規メンバーに活動内容を伝えるだけではイメージがわかないので、説明の際にあらかじめPJから集めた活動風景の写真をみることでイメージしやすいようにしました。あと、新規メンバーに活動のスケジュールが書き込めるワークシート配ったことも良かったと思います。実際に新規メンバーにはスケジュール帳を持っていない人いたので役に立ったのではないかと思います。

Q. 今回の研修を今後の地域活動にどう生かして欲しい？

研修で行った発定理由や活動目的の共有は地域活動をしていく上でメンバー全員にとって大切なことです。今回は新規メンバーを含めPJメンバー間でしっかり確認できたと思うので、これからは意識して活動して欲しいと思います。



421Lab. 学生運営スタッフ 2年 椿沙耶さん

→次のページからは、いよいよPJ  
ごとの活動に入っていきますよ!





スタートアップ研修

FIVA

文学

SNS

# 国際交流プロジェクト FIVA @ ひまわり 駅伝大会

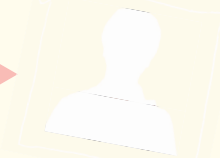
国際交流プロジェクト FIVA (以下、FIVA) は、多文化共生をテーマに活動し、北九州を訪れた外国人に日本の街や文化を紹介するためのイベントの企画・運営を行っているプロジェクトです。その FIVA が、北九州 YMCA の日本語学校に通う留学生と交流するために 5/14(土) に小倉北区で開催されたひまわり駅伝大会に参加しました。

ひまわり駅伝大会とは、北九州市庁舎の周回コースを 7 時間で何周走れるか競う駅伝大会です。当日の参加者は、FIVA の学生 14 名に対し、YMCA からは中国、ネパール、ベトナム、フィリピンなど東南アジアからの留学生が約 160 名にものぼりました。この駅伝大会はチームの構成人員に制限はなく、途中で中断しても競技時間内であればいつでも再開できるというルールがあるため、留学生と FIVA の学生は走りながら交流したり、休憩しながら交流したりしていました。今回参加した FIVA の学生は一年生が多く、初めての地域活動にもかかわらず留学生に積極的に話しかけていました。



## FIVA のリーダーの声

一年生は初めての活動だったので、もし留学生と交流する中で話に詰まっていたらサポートしようと思ひ、話すネタを準備してはいましたが、みんな上手に交流できていました。今回の交流では、日本語が少しわかる外国人に対して簡単な日本語を使って説明することに注意しましたが、外国人でも理解できる簡単な日本語を使って説明することの難しさを感じました。また英語が通じない国の人もあるので、そういった人に対してどう接すればいいのかというのも課題だと感じました。今回は楽しさもあり、課題点も見つかり、今年度の初めての活動としてはよかったですのではないかと思います。今後、FIVA が企画するイベントあるので今回感じた課題を活かせようです。



篠崎友哉さん  
FIVA 外国語学部 3 年

## 留学生の声

何晨露 (カシンロ) さん  
YMCA  
中国西安出身 22 歳



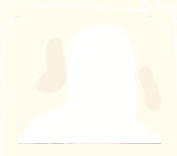
北九大の学生と交流できて非常に有意義な時間になりました。日本人とコミュニケーションをとることで日本語の自分の語彙力を高めるだけではなく日本の文化を学ぶこともできます。私は去年の 10 月から YMCA に来ていますが、今日参加した学生は殆ど 4 月からきた留学生ばかりです。ですので、今日は駅伝大会では走らずに他の留学生をサポートしました。様々な専攻の学生、様々な地区から来た学生と交流することができたので非常に勉強になりました。

## 初めて参加したメンバーは・・・



川路千晶さん  
FIVA 外国語学部 1 年

初めての活動で緊張しましたが、留学生が積極的に話しかけてきてくれたことでリラックスして話すことができました。留学生は特に日本と北九州市について興味があるようで沢山質問されました。英語を使ってコミュニケーションがとれたのでよかったです。



角佳弥さん  
FIVA 外国語学部 1 年

FIVA の活動に参加するのは初めてで不安もありましたが、積極的に YMCA の留学生に話しかけることができました。しかし、北九州や日本の文化について質問されたときに答えられないこともあったため、今後、北九州や日本について知る良い機会だと思って積極的に活動していきたいと思っています。



スタートアップ研修

FIVA

文学

SNS



## 「文学の街・北九州」発信プロジェクト @ 厨二病についての語り場

「文学の街・北九州」発信プロジェクトでは、定期的に文学に関連するテーマについての語り場を開催しています。今回のテーマは「厨二病」。5/3(水) 13 時～15 時まで小倉京町の文学サロンにて行われました。「厨二病」とは、一般的に思春期特有の思考や行動を意味します。参加者は 11 人で、各々が厨二病と関連性があると思う文学作品を持ち寄り、気になった点について語り合っていました。また、当日の雰囲気は終始和やかで、年齢や立場関係なく意見を話し合っている様子を見ることができました。この「厨二病」についての語り場の主催者の 1 人である津隈さんにインタビューしてみました。



### ☆主催者にインタビュー☆

#### ・厨二病をテーマにした理由

文学 P1 が出来た時に「文学とは何か」というテーマで議論をしたことがありました。その時に、ライトノベルと小説の境目が分からないという話が出てきました。

私は、「厨二病」という言葉もそれと似ていると思ったんですね。例えば、厨二病がエムと呼ばれるものがあるんですが、一般的に詩や歌の歌詞などは「文学」として扱われるのに、一度、厨二病がエムと呼ばれると「厨二病(笑)みたいな.....」私が厨二病を好きだとかそんなんじゃないんですが、「この差はなんだろう?」と思ったんです。ノーベル文学賞をポップ・デュランさんが受賞したように、

歌が文学として扱われるなら、「厨二病」も文学になり得るのではないかと思います。そのことについて、一度考えてみたいと思って、「厨二病」をテーマにしました。

#### ・今回のイベントで力を入れたことは?

一年生や初めて参加する人も議論に参加しやすくする、ということに力を入れました。例えば、一つの議題を挙げて「これについての答えを出します。」と言うと、議論の幅が広がらなくなってしまいます。そのため、今回は「神様」とか「世界観」とか「ネーミングセンス」など、「厨二病」を中心に様々な方向に話が出来ました。

#### ・「厨二病」というテーマの語り場を企画するなかで、これまでの活動と違ったところはありますか?

今までは「聴衆型」という感じで、登壇者を決めて話してもらっていました。皆で何らかのテーマについて、丸々 2 時間語り合うというのは今回が初めてです。これまで、前半に誰かが登壇者として話して、それが終わってから皆でそれについて話して感じてきたから、今回は随分違いました。以前の企画では人数が多かったため、全員で一つのテーブルを囲んで話をするということが出来ませんでした。幾つかの島に分かれて話す感じでした。今回は全員で一つのテーブルを囲んで話をするということが出来、全員が発言しているというのは珍しかったから、すごく嬉しかったです。



取材対象者 取材記者

【文学 P1】リーダー 津隈祐美さん 文学部 4 年  
【運営スタッフ】黒松隆志 地域創生学群 2 年

#### 取材者のコメント

今回初めて文学プロジェクトの語り場に参加させていただきました。普段は漫画や雑誌をよく読むのですが、一般的に文学として言われている森 鴉外や夏目漱石などの作品はあまり読んでいません。ですから「厨二病」というテーマでしたが、ついていけるか少し心配でした。実際に参加してみると、考えていたような不安要素は一切なく、厨二病というテーマをもとに大学 1 年生から社会人までの色々な視点の考え方を聞くことが出来て非常に楽しかったです。自身が厨二病を感じる作品を一つ持つということでも、漫画やヴィジュアルバンドの CD、ニーチェや村上春樹の短編集などの様々なジャンルが集まり、一人一人の思うことが違うことも実感しました。それでいて、「厨二病と言われても作品は作品である」だとか「想像力が豊かなわけだから、今後作品を生むことに繋がるのではないかな」などの意見には共感できました。(学生運営スタッフ 2 年 黒松隆志)